

おひさま通信

〒779-3125

徳島市国府町早瀬字雀ヶ原218番6

Tel/Fax 088-642-5933

NPO HP <http://npo-ohisama.org/>



VOL. 14

2013年8月15日

特定非営利活動法人共同子育て広場おひさま（以下「おひさま」）は、1986年以来活動をすすめてきたすぎの子共同保育所の保育実践をベースに、新しく地域の子育て支援センターとしての役割を担いたいと2005年6月24日に設立認証されたNPO法人です。

おひさま通信は、会員や地域の方々を結ぶ機関誌として、おひさまの諸行事の案内や報告、すぎの子共同保育所の子どもたちの様子などを掲載しています（季刊）。

講演会報告

平成24年度子育て講演会 実行委員レポート

「食とコミュニケーション-発達と援助-」

親として、子どもに元気に育ってもらいたくて、そのためにもしっかり噛んで、何でも食べるようになってほしい。でも、毎日「カミカミして食べよ」「残さんと全部食べてね」なんて言ったり、“硬めの食材を”と工夫したりしても、なかなかしっかり噛めるようにならない…。こんな風に子どもの食事のことで悩む親は少なくありません。

そこで、おひさま事務局・保育所職員と在園保護者で実行委員会を立ち上げて、らく相談室の言語聴覚士である山崎祥子さんを講師にお招きし、講演会を開催することになりました。

講演では、食べることの発達とつながっていて、姿勢・運動、認知、対人関係などに支えられて、食べることや噛むことが発達すること、もしなにか問題があれば、急激にはなく2～3年かけて、生活全体から見直すということ、さまざまな具体例を出しながら、わかりやすくお話をしてくださいました。また、参加者それぞれが、実際におせんべいやコップに入った水などを使って、食べる（飲みこむ）動作について実習を行いました。

参加者からは、「自分が出した食事をわが子が全部食べるかということばかり気にしていたが、口だけに注目するのではなく、生活全体を見直すことが大事で、食事の時間そのものを楽しく豊かな時間にしたいと思った」「好きな人と楽しく食べることが“おいしい”につながると聞いて、子どもともっと食事を楽しみたいと思う」「山崎先生の子どもに対するあたたかい考え方に、ゆったりと子どもと過ごしていきたいという気持ちになった」「子どもの心に寄り添うことの大切さを、改めて確認できた」といった感想が寄せられました。

これからも、子育ての悩みにそっと寄り添い、心があたたかくなるような講演会や活動を続けていきたいと思ひます。

在園保護者実行委員：藤井



H24.9.15開催
会場：あわざねホール
参加者：57名
(内NPO会員39名、会費外21名)



ご案内

会員募集

みなさんの力でおひさまの活動を支えてください

子育てが楽しくなる、子どもの目がいきいきと輝く活動に取り組みます。行事に参加できる、できないに関わらずおひさまを応援したいという方など、入会をお待ちしております（入会金なし）。

【年会費】 ★正会員：5000円

★賛助会員：一口1000円

【会員特典】 ☆総会決議権（正会員のみ） ☆おひさま通信配布

☆イベント割引（例：園開放通常参加費大人300円⇒100円）

寄付のお願い

随時寄付をお受けしております。

【会費、寄付振込口座および振込名義】

郵便振替口座 01610-2-93045

口座名称 特定非営利活動法人共同子育て広場

2013.6.1現在：正会員81名 賛助会員5名



園開放報告 お家でもしてみよう！親子でクッキング♪

2013年1月19日（土）、すぎの子共同保育所保育室で、園開放事業『親子でクッキング』の親子調理実習が開催されました。

1歳児～5歳児までの親子10組の参加があり、スタッフから、食材や年齢別に使いやすい道具の提案をさせていただいた後、年齢別グループに分かれて調理開始。

1・2歳児チームは、手指に力を込めて細かく細かく葉物野菜をちぎっていきます。30分以上も集中してお料理する姿に保護者の方もびっくり！3歳児チームは、ナイフだと少し硬い野菜はレンジアップするなどのコツを伝えながら。4・5歳児チームは、慣れた手つきで包丁を使って、いろいろな切り方に挑戦！豆腐をつぶしたりおにぎりを作る作業は袋の中でしたりと、お家でも低年齢から簡単に実践できる方法をご紹介します。

約1時間後には、具沢山けんちん汁・野菜のお浸し・おにぎりの3品が完成！自分で配膳もして準備万端！「いただきま〜す！」普段苦手な緑のお野菜もモリモリ食べる姿に、またまたびっくりの大人達。「今まで何が出来るか解らなかったで、今日の姿を見て大変参考になった」「楽しかったのでぜひ家でも一緒にしたい」「たくさんの方といろいろなお話ができて

よかった」等の感想をいただきました。



ちぎるのはまかせて！ 楽しい！
白菜・キャベツ・小松菜を
どんどんちぎっていきます。
(1～2歳児チーム)

少し難しいしめじの屑分けや、
ピーラーで皮むき、
洋食ナイフを使って、
人参・大根の半月切りに挑戦！
(3歳児チーム)

子ども用包丁を使って、
人参・大根の短冊切り。
出汁もひいて、
ゆるゆる湯る昆布も切ります。
ピーラーもとっても上手！
(4・5歳児)

少し難しいしめじの内側を
さっとぬぐえば…
くっつかずに簡単に
おにぎりが作れます！
『やうやうフェュッ!』(全年齢)

ボランティア募集

もっとたくさんの方におひさまを助けてもらい、活動を広げていくためにボランティアを募っています。

- ◇保育のお手伝い（要保育士資格）
- ◇事務局のお手伝い（印刷や発送などの作業）
- ◇園開放事業スタッフ（受付・準備・広報等）
- ◇畑作業のお手伝い 等…

8ヶ月程、育休中の先生の代わりに給食室のお手伝いをさせて

いただきました。毎日同じ事の繰り返しというわけではなく、いろいろなメニューで、

彩りや切り方、味付けを工夫して、愛情たっぷりの給食を作ってくれていると実感した

毎日でした。夏のある日、4歳児の子どもたちが、キラキラの笑顔で「これ給食に入

れてください！」と畑で収穫したミニトマトを1つだけ持ってきました。「確か先生入

れて18人…困ったな～漬してお汁にでも入れたらいいか…」と思っていると…なんと、

隣で岡田先生がミニトマトを18等分に切り分けていたのです。「やっぱりみんなで育てたけん、みんな

で食べたいだろうし…」と!! その瞬間、共保の大人達はいつも子ども達を一番中心に考えてくれてい

るんだと改めて知る事になりました。日々、参観日&料理教室のようでしたが、とてもいい経験になりま

した。ありがとうございました。

ボランティアさんの声



在園保護者（5歳・3歳）：吉野

“発見のよろこび いっぱい”

いいものさがしのおまいりさんぽ♪

自分たちの足で歩けることがうれしくて、どんどん世界を広げたいと思っている1、2歳時期。

子どもたちは、おもしろいものを見つけて向っていき、そこでしゃがんで手を伸ばし、触れたり匂ったり、耳を傾けたりしながら、また新しいものを見つけて立ち上がり歩いていきます。お散歩には、子どもたちが心ひかれるもの、自分から伝えたい魅力的な世界がいっぱいです。子どもは、五感をフルに働かせ自然の中での直接体験を通して、豊かな感性を育てていきます。子どもたちは、戸外で出会う様々なものに立ち止まりながら、大人や仲間と一緒にゆったりとお散歩楽しんでいます。

子どもたちが見つけた“いいもの”に思いを寄せることで、子育てがとっても楽しくなります。

是非、子育てをしているみなさんにも、子どもと一緒にいいもの探しのおまいり散歩に出かけてもらいたいと思います。

春 テントウムシにダンゴムシ、カエルにアリさん。「とっと！」と友だちの声を聞いて、視線が変わればツバメにひらひらちょうちょう…。小石を見つけて大事に握りしめ歩く子が、用水路の透き通ったお水を見てほとんど落としてみま。桜の花びらが水面に落ち、流れていく様子に「あー、さくらのおはなのおふね♪」みつけた！



近所のお借りしている畑。耕す前のでこぼこの畑に足をとられ、転がりながらも裸足で駆けまわる子どもたち。「あー！おったー！」(ツキガエルを発見した2歳児)



はじめてカエルに触れてみようとして見つめる1歳児。後ろでは大丈夫かな…と2歳児が見守ります。

心のことば一指さし

10ヶ月頃から現れる指さしは、子ども自らが発見し、感動したものを大人に伝えようとする“心のことば”です。「なんでも自分で確かめたくて」いろいろなものにちょっかいをかけて探索していく楽しさが、より新しいものを“発見しよう”とする気持ちへと高まってきます。子どもたちの指さしやことばには、その子その子の思いがいっぱいつまっています。



冬 水たまりが凍っているのを見つけ「えい！」と足で割ってみます。おもしろくてもう夢中！割れた氷を手を持って「みてー、〇〇(名前)がみえるー！」と一人の子が、大人や仲間を覗き込むとみんながまねっこ。氷(“いいもの”)を「これママにおみやげ！」と手にのせ、ずっと大事に持ち、帰路を急ぎます。袋に入れて持ち帰る子もいます。保育所について「ただいまー、おみやげあるよー！」と大人や上の子、下の子に見せようとしたら…。「こおりおらんようになった」と不思議そうにすると、上の子たちが「ほれはな…」と教えてくれます。またある日には、道中にカマキリのたまごを見つけました。その日からカマキリの赤ちゃんの誕生を心待ちにする姿や、「さむいけん、みんな(生きもの)おらんかなー」「はやくあったかくなったらいいのになー」「さむい、さむいっていいよかなー？」と、自分たちの経験の中からイメージを膨らませ、仲間とのおしゃべりがどんどん膨らんでいきました。



初夏 田んぼを覗き込めば、オタマジャクシにアメンボ！最初は怖くて手が伸ばせなかった子たちも、いつのまにか手を伸ばし、おたまじゃくしを夢中でおいかけまわします。4、5歳児が魚とりやザリガニ釣りに行く姿を見ていて、散歩の途中で用水路を見つけると「おさかなおらんかな…」と足を止めます。すぐ横の原っぱで見つけてきた長〜い草を「うんとこしょ！」と根っこから引っこ抜いて釣り竿にみだて、藻や流れてくる葉っぱを釣り上げてみます。なにも流れてこない、自分たちで草花を探してきて流します。「あ、つれた〜！」と大喜び。自然の中で、あそびはどんどん広がっていきます。



「わぁー！」「みて！」
「オジャマクシ！」
「あ、あそこ！
アメンボおるよー」
(2歳児)



「あ！つれた！」
仲間の声を聞きつけ
「どれどれー!？」と、
駆け寄ってきます！
釣れたものは…

「おしゃかなつれんな…おしゃかなしゃーん！」

秋 秋の神社は宝物でいっぱい！夢中になってドングリ、イチヨウの葉、木の枝などを拾い集めていきます。草むらでは、大きなカマを振りかざすオオカマキリに会い、目が離せない子どもたち…カマキリをさわられる仲間に教えてもらいながら、秋が終わる頃には、自分で捕まえることができるようになりました。



「あ、カマキリおるよ！」
でも怖くて手が伸びない2歳児
「(カマキリ)リ！リー！」(1歳児)

「おーい！どこですかー？」
「あっちにいったよなー？」
バッタとおいかけてっ？かくれんぼ？
友だちと一緒に生い茂った草むらの中を
夢中になって探します！(2歳児)

